

中村清二博士著 「田中館愛橘先生」

桑木彥雄

本書は田中館先生の米壽の祝として著わされた先生の伝記である。先生の日常の生活、弟子に対する感化、学術上の仕事、社会的活動、世界の学者たちとの交渉等、光榮に充ちた先生の長い過去に於ける凡てすべにわたって、極めて自由な書きぶりを以て感銘深く述べられたものであるが、主題上、記述は常に学術を離れないから、本書は伝記であると同時に一の学術書たる觀を与える。

先ず序文に続く「概説」に先生の家系と先生の閲歴の概要とを記し先生の学術上の業績が純正物理学の外に重力、地磁気、地震、測地、度量衡、航空等の諸分野に及んでいること、その他先生がローマ字問題に身心を打込んで居られること等の一般を挙げ、次に第一篇は「先生に聞く」と題して先生の安政三年の誕生から明治十一年九月東京大学理学部入学までを先生の直話に基いて「私が」云々という風に自伝体に綴つてある。話は先ず先生の幼名を記した当時の紙片と臍へその緒との展示に始まつたようである。先生が郷里南部藩に於て武士の早教育硬教育を受けられた頃のことなど、是亦丹念に保存せられてあつた其の頃の師たりし人や先生父君の書簡等に依つて印象を生き生きと強められるのである。又、明治初年上京せられてから大学入学までの頃の叙述には、自ら明治文化史の一節が語られているようであり、渾沌たりし明治初期に於ける帝都の世相が後の偉大なる明治盛代のそれに展開せられて行く経過の如きも、伝記の主を中心として如実に想到せし

められるのである。第二篇以下、先生の教授時代から名誉教授の今日まで、大学、学士院、学研、震研、航研其の他各種の学会に於ける創始以来の先生の諸の貢献は先生の生涯の中樞をなすものであるから、記述も精細を盡してあり、又、国際学術会議等のために実に二十数回の渡欧、此の間、世界の学者の間に馳駆せられ多くの学界佳話に自ら大に国威を宣揚せられたことなどは真に学界の壮事として永く語り継がれるであろう。又夙く明治二十年代に先生一生の一大事業たる日本全国各地磁気測量が施行せられたが、此の伝記の著者中村博士は当時学生として之に加わられたのであった。此のときの師弟同行、学術修練の記録は実に本書の一つの山をなすものとも思われ、記述にも一段の精彩を見るようであり、我国の物理学は斯様の鍛錬の下に確固たる基礎を得て、堅実なる歩武を発足し得たのであると、後進をしてうた転たしやうけい憧憬の念を禁じ得ざらしめる。我が国の物理学は、明治十年代に先ず山川先生に依つて其の礎石を置かれ、田中館先生と長岡先生とに依つて真に光輝ある発展を創始せられたのである。中村先生は先きに山川先生伝を編纂せられ、ここに又田中館先生伝の貴重なる著述を公けにせられ、本邦物理学発達の由来を明らかにせられたことは、学界の等しく感謝する所であろう。

(昭和十八年八月、科学)

- 桑木或雄著『科学史考』（河出書房、昭和一九年）所収。
- 読みやすさのために、旧漢字は新漢字に、旧かなは新かなに変更し、適宜振り仮名をつけた。ただし、一部の漢字は旧漢字のままにした。
- PDF化には \LaTeX 2 ϵ でタイプセッティングを行い、`dvipdfmx`を使用した。

科学の古典文献の電子図書館「科学図書館」

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/munehiro/sciencelib.html>

「科学図書館」に新しく収録した文献の案内、その他「科学図書館」に関する意見などは、
「科学図書館掲示板」

<http://6325.teacup.com/munehiroumeda/bbs>

を御覧いただくか、書き込みください。